

研究主題

「わたしメッセージ」で児童生徒に認識をもたらす道徳授業の試み

第2学年A組

道徳学習指導案

1 主題名

たがいをほめあって、クラスを楽しくしよう

低学年2－(3), 低学年4－(3) 互いを認めあう楽しい学級に

2 資料名

「みんなのいいところ」 出典 日本標準

3 この資料でもたらしたい認識

次の①～③を認識させる

- ① 友達や自分にいいところをみつけてもらおうと、がんばる力がわく。
- ② 他の人も友達や先生にいいところをみつけてもらおうとがんばる力がわく。
- ③ みんなにがんばる力がわくと、学級全体が楽しくなる。

4 資料を選んだ理由

私は、子どもたちに毎日楽しい学校生活を送ってほしいと願っている。そのためにはまず、学級での関わりを通して、互いを認め合い、理解し合い、信頼感や友情を育てることで、よい友達関係を築き、身近にいる学級の友だちや先生との学校生活を楽しいと感じさせたい。

本学級の児童の実態アンケートでは、「自分のいいところがわかる」児童が53%、反対に「自分のいいところがわからない」と答えた児童は47%いた。また自分のいいところがわからないと答えた児童の中で、「自分に自信がない」という児童は56%もいた。このことから、自分のいいところに自信を持って過ごしている児童もいるが、自分のいいところがわからず、自信を持つことができずに、消極的になってしまっている児童もいることがわかる。しかし、「クラスでの生活をもっと楽しくしたいですか」という問いには、「このままでよい」と答えた児童が11%、「もっと楽しくしたい」と答えた児童が89%であった。このことから、子どもたちがもっと楽しいクラスを望んでいることもわかった。また、「友達や先生からいいところをほめられたら、どんな気持ちになるか」というアンケートでは、「嬉しい」、「もっとがんばる気持ちになる」、「これからも続けたい」、「力がわく」、「自信が持てる」と答えた児童が多かった。

以上の実態をふまえて、この資料を選んだ理由は、次の通りである。

- 日常的によく見られるような場面設定である。本学級でも同じようなことがある。
- 主人公の自信がない時と、みんなからほめられて嬉しそうな時が対比してあるので、ほめられるとどうなるのかがとらえやすい。
- いいところを友達から言ってもらうことで、自信とうれしさを味わう「あやちゃん」の行動を知ることが認識へとつながる。
- 互いのいいところを認め合っているみんなの行動を知ることが認識へとつながる。
- 認識を深めるための体験活動を組み込みやすい。
- 実際に「あやちゃん」と同じようにいいところをみつけてもらおうという体験をすることで、認識がより自分の問題になる。

私は、クラスの全児童が互いに認め合う活動を通して「自分のいいところがわからない」という児童にも、自信を持たせたい。「自分のいいところがわかる」児童には、もっとその自信を増やすことができるようにしたい。それをきっかけとして、ひとりひとりにがんばろうというやる気を持たせ、最後にはクラスみんながそのような気持ちを持つことで、学級全体が楽しいと思えるクラスをつくりていきたいと考えている。

4 本時のねらい

友達や先生にいいところをみつけてもらおうと、やる気がおこることをわからせて、楽しい学級をつくらせる。

5 日時

平成17年 9月21日(水曜日) 5校時

2年A組教室において

6 準備

- ・児童 資料「みんなのいいところ」プリント、道徳ノート、心のノート
- ・教師 挿絵、メッセージカード

7 展開

段階	学習活動	教師の支援	配時
導入	1 教師の「わたしメッセージ①」を聞き、本時学習のめあてをつかむ。 ○ 先生は、お友達や先生にほめられたときに、すごく嬉しかったんだな。 ○ わたしも、先生みたいにほめられてみたいな。 ○ 今日は、お友達にいいところをみつけてもらえるんだな。	◎ わたしメッセージ①' 資料の中で教師が児童に何を認識させようとしているかについて語る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師自身が先生やみんなにほめられ、それをきっかけにがんばる力がわいて学校が楽しくなった体験。 ・ 自分のいいところをみつけてもらおうと、がんばる力がわいて、学校が楽しくなったので、今日は2のAのみんなにもそれを味わってほしいという願い </div> ○ 話に注目させるために、具体物を提示しながら話をする。	5
	【めあて】 おたがいをほめあって、クラスを楽しくしよう。	◎ わたしメッセージ②' 認識の事実関係がどうなっていると教師が認識しているかを語る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ あやちゃんのように、友達や先生にいいところを見つけてもらい、自分を認めてもらおうと、嬉しくなること。 ・ みんなも、いいところをみつけてもらおうと嬉しくなっていること。 ・ みんなが嬉しくなると、クラス全体が楽しくなること。 </div> ◎ わたしメッセージ③' その認識を児童にもってもらおうとなぜ教師が思ったかについて語る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2の1のみんなにもいいところがたくさんあるから、いいところを教えあったら、みんなにがんばる力がわくと思うこと。みんなにがんばる力がわくともっと楽しい2の1になると思うこと。 </div> ○ 自分の経験と共通していることに目を向けることができるように、実態アンケートの結果にもふれながら話をする。	5
展開前段	2 資料「みんなの いい ところ」を読んで話し合う。 (1) 教師の範読を聞く。 (2) 話の内容を振り返る。 ① あやちゃんがちいさい声になる理由を考える。 ・はずかしい ・自信がない(認められていない) ② ともだちにほめられた時のあやちゃんの様子 ・うれしい ・自信をもっているから生き生きしている ③ いいところを言い合っているみんなの様子 ・みんなが嬉しい ・みんながニコニコして楽しい (3) 教師の「わたしメッセージ②',③」を聞く。 ○ 私はどんなところをほめてもらえるかな。 ○ みんなでほめあったら楽しそうだな。		
展開後段	3 「2の1いいところ見つけ大会」をする。 (1) グループに別れて、いいところを発表する。 (2) 付箋を学習プリントにはる。 (3) 教師からの手紙をもらう。	○ 交流の時間をたくさんとるために、友達のいいところを事前に心のノートと付箋に書かせておき、それをもとに発表させた。また、グループに1人ずつ司会者の役割を持たせ、会をスムーズに進行させる。 ○ 教師からすべての児童にいいところカードを渡す。	20
終末	4 教師の話を読み、「今日の学習でわかったこと」を書き、発表する。 5 「友達のはなしを聞いてわかったこと」を書く。	○ 「能動的な聞き方」で児童の話を書く。 ○ 自分の認識を広げるために、友達の話を書く時間を確保する。	15